

ダクティル鉄管用 ポリエチレンスリーブ

施工要領書

適用呼び径
50 ～ 2600



一般社団法人

日本ダクティル鉄管協会


○安全に作業頂くための注意事項



警告 このマークは、その事項を守らないと使用者または第三者が、死亡または重傷を負う危険性があることを意味しています。



注意 このマークは、その事項を守らないと使用者または第三者が傷害を負ったり、あるいは管の持つ本来の機能を発揮することができなったり、管を破損する可能性があることを意味しています。

なお、「 **注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

《安全作業の確保のために》

配管施工および接合作業を安全かつ確実に実施していただくために、労働安全衛生規則を遵守し、特に次の事項を守ってください。

(1) ポリエチレンスリーブの施工



警告 下記の事項を守らなかった場合、重大災害を引き起こすおそれがあります。

- ① スリーブを管に被覆する時は、平坦な場所で作業を行ってください。
- ② スリーブを被覆するために管端を吊り上げる時は、容易にはずれない位置に所定の吊り具をセットし、作業中は安全な姿勢・位置を確保してください。



注意 下記の事項を守らなかった場合、災害を引き起こすおそれがあります。

- ① スリーブを被覆してある管上は滑りやすくなっているため、立ったり歩行したりしないようにしてください。
また、作業者が通行する場所、作業を行う場所には、滑りやすいのでスリーブを放置しないでください。
- ② スリーブを切断する時は、切断工具の取り扱いを十分に注意して作業を行ってください。

(2) 管の吊り上げ・吊り降ろし



警告 下記の事項を守らなかった場合、重大災害を引き起こすおそれがあります。

- ① 吊り具は使用前に必ず点検してください。
- ② スリーブを被覆した管を吊る時には、滑りやすいので、管の重量および重心をよく確認し、所定のナイロンスリングまたはゴムチューブなどで被覆されたワイヤロープを必ず用い、管を2点吊りしてください。
- ③ 管を吊る前に、周囲の安全を確認してください。
- ④ 管などを吊った時、その下に入らないでください。

(3) 管の保管



警告 下記の事項を守らなかった場合、重大災害を引き起こすおそれがあります。

- ① 管は平坦な場所に保管してください。
- ② 管の転がり防止のために、管底側部にキャンバ（くさび）を用いて歯止めをしてください。
- ③ 関係者以外が管に近づかないように、立ち入り禁止の措置をしてください。

施工要領書の内容は、製品の仕様変更などで予告なく変更される場合がありますので、当協会のホームページ(<http://www.jdpa.gr.jp>)から最新の施工要領書がダウンロードできますので、お手持ちの施工要領書をご確認いただき、施工作业時には最新の施工要領書にしたがって作業を行ってください。

目 次

I 概論	4
1. 名称	4
2. 目的	4
3. ポリエチレンスリーブ	4
4. ポリエチレンスリーブ固定用ゴムバンド（参考）	6
5. 固定用締め具（参考）	8
6. 粘着テープ（参考）	9
7. 固定ネット（参考）	9
II 施工要領	11
1. 直管の施工要領	11
2. 施工上の留意点	16
3. その他の施工要領	20
4. 固定ネットの施工要領	29
5. ポリエチレンスリーブ、ゴムバンドの数量計算	30

I 概 論

1. 名 称 ダクマイル鉄管用ポリエチレンスリーブ
2. 目 的 ポリエチレンスリーブによる管被覆の目的は、埋設土壌と管との直接の接触を断つことにより、管の防食を行うものである。
3. ポリエチレンスリーブ
 - 1) スリーブの寸法
スリーブの形状はチューブ状で、各部寸法は表1のとおりである。

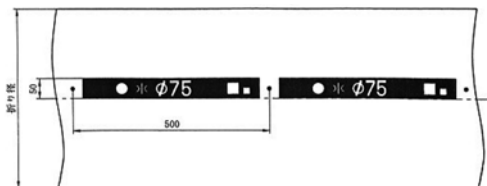
表1 スリーブの各部寸法

単位 mm

呼び径	内 径	折り径	厚 さ	長 さ
50	248	390	0.2	5000
75	248	390	0.2	5000
100	286	450	0.2	5000
150	350	550	0.2	6000
200	414	650	0.2	6000
250	446	700	0.2	6000
300	509	800	0.2	7000
350	573	900	0.2	7000
400	637	1000	0.2	7000
450	700	1100	0.2	7000
500	732	1150	0.2	7500
600	859	1350	0.2	7500
700	955	1500	0.2	7500
800	1114	1750	0.2	7500
900	1210	1900	0.2	7500
1000	1305	2050	0.2	7500
1100	1401	2200	0.2	7500
1200	1592	2500	0.2	7500
1350	1719	2700	0.2	7500
1500	1846	2900	0.2	7500
1600	1974	3100	0.2	5500 (6500)
1650	2037	3200	0.2	5500 (6500)
1800	2165	3400	0.2	5500 (6500)
2000	2419	3800	0.2	5500 (6500)
2100	2483	3900	0.2	5500 (6500)
2200	2610	4100	0.2	5500 (6500)
2400	2801	4400	0.2	5500
2600	3056	4800	0.2	5500

備考 長さの()内寸法は、管の有効長が5000mmの場合を示す。

2) スリーブの表示例 水道用の場合の表示例



エポキシ樹脂粉体塗装管の場合の表示例

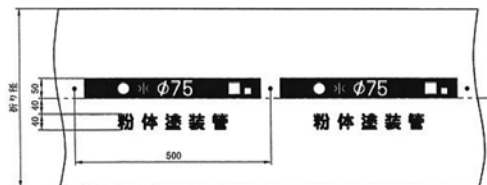


図1 スリーブの表示例



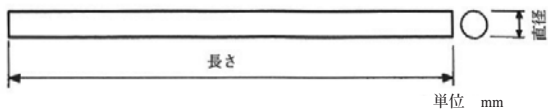
注意

日本ダクトイル鉄管協会規格品または日本水道協会規格品を使用してください。それ以外のものを使用した場合、腐食の原因となるおそれがあります。

4. ポリエチレンスリーブ固定用ゴムバンド（参考）

ゴムバンドの形状および寸法は、表2に示すとおりである。

表2 ゴムバンドの形状および寸法



呼び径	長さ	直径
50	500	5
75	560	5
100	680	5
150	920	5
200	1160	5
250	1420	5
300	1660	5
350	1920	5
400	2160	5
450	2400	5
500	2660	5
600	3160	5
700	3640	5
800	4140	5
900	4640	5
1000	5140	5
1100	5640	5
1200	6120	5
1350	6880	5
1500	7620	5
1600	8080	5
1650	8320	5
1800	9040	5
2000	10060	5
2100	10600	5
2200	11120	5
2400	11980	5
2600	13080	5

5. 固定用締め具（参考）

固定用締め具の形状・寸法およびゴムバンドとの組み合わせを下図に示す。

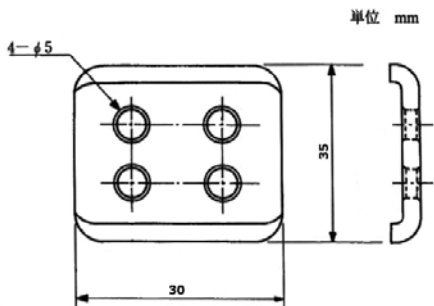


図2 形状および寸法

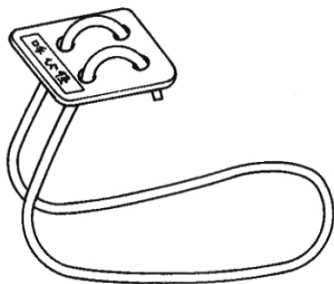


図3 締め具とゴムバンドの組合せ図

6. 粘着テープ（参考）

粘着テープは、JIS Z 1901（防食用ポリ塩化ビニル粘着テープ）の規定によるものである。（厚さ0.4mm、幅50mm）

7. 固定ネット（参考）

固定ネットは、管理設位置に地下水が存在する場合に適用する。固定ネットの形状および寸法を図4、表3に示す。

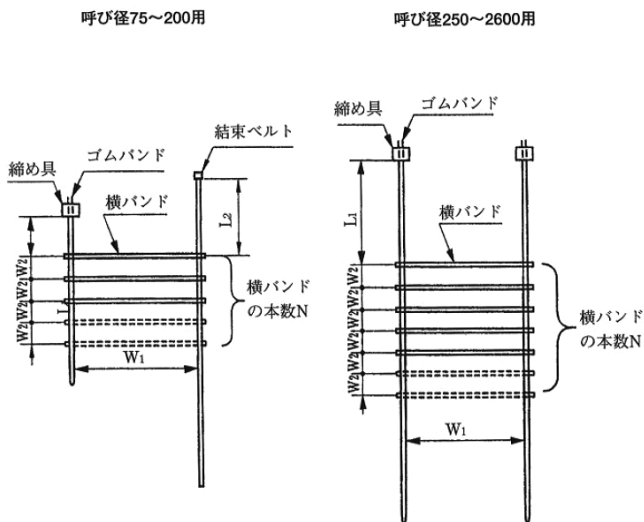


図4 固定ネットの形状および寸法

表3 固定ネット形状および寸法(続き)

単位 mm

呼び径	各 部 寸 法				
	L ₁	L ₂	W ₁	W ₂	N(本)
75	63(53～ 73)	145(135～155)	280 (275～285)	50 (40～60)	3
100	93(83～ 103)	225(215～235)			
150	103(93～ 113)	285(275～295)			
200	163(153～ 173)	395(385～405)			5
250	230(210～ 250)	—			
300	290(270～ 310)	—			
350	300(280～ 320)	—			7
400	360(340～ 380)	—			
450	420(400～ 440)	—			
500	170(150～ 190)	—	360 (355～365)		9
600	230(210～ 250)	—			
700	240(220～ 260)	—			
800	300(280～ 320)	—			
900	370(350～ 390)	—			480 (475～485)
1000	380(360～ 400)	—	11		
1100	440(420～ 460)	—			
1200	500(480～ 520)	—			
1350	550(530～ 570)	—	13		
1500	640(620～ 660)	—			
1600	700(680～ 720)	—			
1650	730(710～ 750)	—	15		
1800	770(750～ 790)	—			
2000	900(880～ 920)	—			
2100	960(940～ 980)	—	17		
2200	980(960～1000)	—			
2400	1090(1070～1110)	—		19	
2600	1170(1150～1190)	—			

備考 ()内は、参考寸法範囲を示す。

II 施工要領

1. 直管の施工要領

スリーブの施工方法にはA法とB法がある。A法はスリーブを一体として施工し、B法はスリーブを直部と接合部に分割して施工する方法である。

一般にはA法が多く、特例的にB法が採用される。

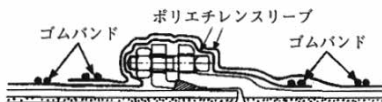


図5 A法による接合部施工詳細図

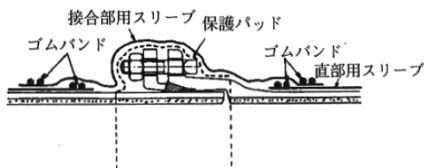

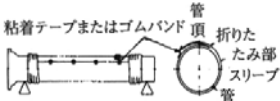

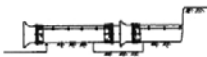




図6 B法による接合部施工詳細図

表4 A法の手順

手順	図	解説
1		<ul style="list-style-type: none"> ●管を吊り上げるか、または枕木の上に乗せて、挿し口側からスリーブを挿入する。
2		<ul style="list-style-type: none"> ●スリーブの端から500mm(呼び径500mm以上は750mm)につけられた印と管端とを合致させて、スリーブを引き伸ばす。 ●管頂部にスリーブの折りたたみ部がくるように折りたたんで、粘着テープまたはゴムバンドで固定する。
3		<ul style="list-style-type: none"> ●受口側および挿し口側にゴムバンドを巻き、管にスリーブを固定する。 ●受口側および挿し口側のスリーブを折り返す。
4		<ul style="list-style-type: none"> ●スリーブを傷付けないように管を吊り下ろす。 ●管を接合する。

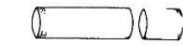
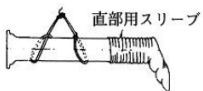
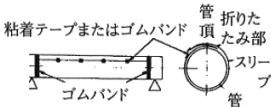

手順	図	解説
5	 <p>十分にたるませる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●折り返したスリーブを元に戻して、接合部にかぶせ、ゴムバンドを巻き、スリーブを管に固定する。
6	 <p>十分にたるませる(2重になっている)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●他方のスリーブも同様に、管に固定する。





注意

所定の吊り具を用い、所定の吊り方を行わない場合、作業中に吊り具がはずれ、管が落下し、重大災害を引き起こすおそれがあります。

表5 B法の手順(参考)

手順	図	解説
1	 <p>直部用スリーブ 接合部用スリーブ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●1枚のスリーブから呼び径450mm以下の場合には約1.5m、呼び径500mm以上の場合には約2mを切り取り、これを接合部用スリーブとし、残りを直部用スリーブとする。
2	 <p>直部用スリーブ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●管を吊り上げるかまたは枕木の上に乗せて、直部用スリーブを挿し口側から挿入する。
3	 <p>粘着テープまたはゴムバンド 管頂折りたたみ部 スリーブ 管 ゴムバンド</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●管頂部にスリーブの折りたたみ部がくるように折りたたんで、粘着テープまたはゴムバンドで固定する。 ●受口側および挿し口側のスリーブの端をゴムバンドで巻き、スリーブを管に固定する。
4	 <p>接合部用スリーブ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●スリーブを傷付けないように、管を吊り下ろす。 ●接合部用スリーブをあらかじめセットした後、管を接合する。

手順	図	解説
5	 <p style="text-align: center;">保護パッド</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●保護パッド（別のスリーブを四重に折りたたんだもので幅約500mm）を接合部円周の上部約1/3にセットする。
6	 <p style="text-align: center;">十分にたるませる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●接合部用スリーブを接合部にかぶせる。 ●ゴムバンドを巻き、スリーブを管に固定する。

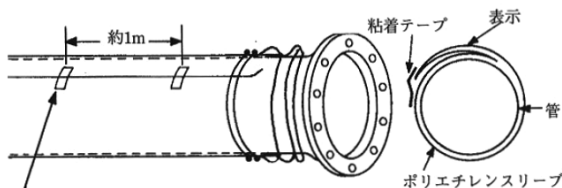


注意

所定の吊り具を用い、所定の吊り方を行わない場合、作業中に吊り具がはずれ、管が落下し、重大災害を引き起こすおそれがあります。

2. 施工上の留意点

- 1) 各種作業は労働安全衛生規則や規準等、各々該当する法規を遵守して施工し、安全には常に注意すること。
- 2) スリーブを傷付けないように注意し、地下水や土砂が入らないように管にできるだけ密着させる。また、埋め戻し時の土砂の衝撃による損傷を避けるために、**折り重ね部(3重部)**が管頂にくるようにする。(スリーブの表示が管頂にくるようにする)

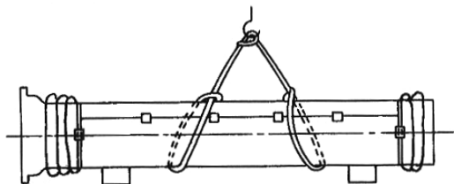


管とスリーブは、地下水が入らないようにできるだけ密着させる。また、粘着テープまたはゴムバンドにより約1m間隔でスリーブを固定する。

図9 スリーブの巻き方(A法)

- 3) 接合部のスリーブは十分にたるませる。
埋め戻した時に、継手の形状に無理なくなじむよう十分たるみをもたせる。また、離脱防止金具を使用する場合、押しボルトに当たる部分のスリーブが、埋め戻し時の土圧によって破れやすいので、十分にたるませるとともに、別に短く切って四重にしたスリーブを上部に当てておくのがよい。

- 4) スリーブを被覆した管を吊る時は、滑りやすいので、管の重量および重心をよく確認し、所定のナイロンスリングやゴムチューブ等で被覆されたワイヤロープを必ず使用し、管を2点吊りする。



管と吊り具の間で滑りやすいので重心位置に十分注意し、安全な吊り方をする。

図10 吊り方の例

- 5) 傾斜配管の場合は、地下水が下側の管とスリーブの間へ流れ込まないように、上側のスリーブを上にして重ね合わせる。

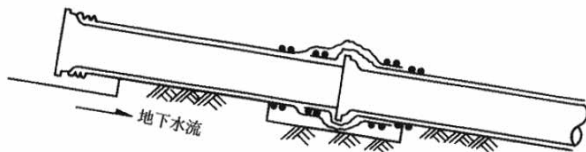


図11 スリーブの合わせ方



注意

傾斜配管で下側のスリーブを上にして重ね合わせてしまった場合、下側の管とスリーブの間へ地下水が流れ込み、腐食の原因となるおそれがあります。

- 6) 地下水の浸入を防ぎ、また、浸入した地下水が移動しないようスリーブの端を管に固定する。

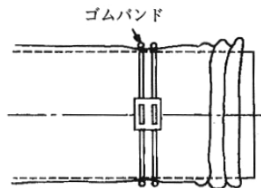


図12 スリーブの固定方法

- ① スリーブの両端は必ずゴムバンドで固定する。
- ② 管の胴体部分には粘着テープの部分巻とし、寒冷地、雨天時および水場等で粘着テープの粘着力が低下する場合には全周巻とするが、粘着テープの代わりにゴムバンドを使用する方がよい。

埋設後、地盤が安定するにつれて、管の真下に空隙が生じることがあり、地下水の流出入をまねく恐れがあるので、ゴムバンドによる固定がよい。また、継手部には固定ネットを使用する方がよい。



注意

ゴムバンド、固定ネットの使用時、ゴムバンドのはね返りに十分注意してください。ゴムバンド等が目に入るおそれがあります。

- 7) 誤ってスリーブに傷を付けた場合は、傷口よりも大きいスリーブの切断片をあて、四方を粘着テープで固定する。

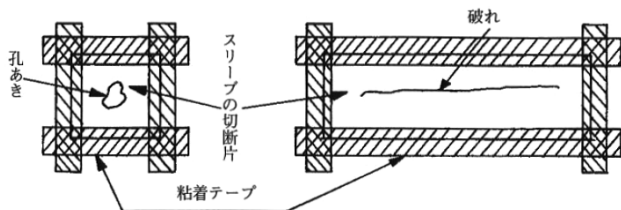


図13 スリーブの補修




注意

スリーブの傷口補修を行わない場合、腐食の原因となるおそれがあります。

3. その他の施工例

異形管類も直管のA法とB法のように、スリーブを一体として施工する方法と、直部と接合部に分割して施工する方法がある。

 **注意** スリーブ、粘着テープの切断時に切断工具で負傷するおそれがあります。


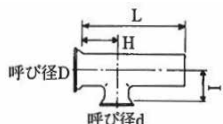
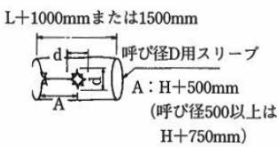
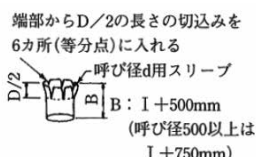

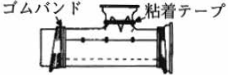
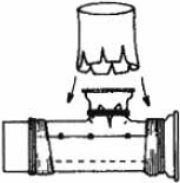
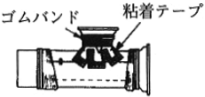
 **注意** 粘着テープ、ゴムバンドによるスリーブの固定が出来ていない場合、腐食の原因となるおそれがあります。

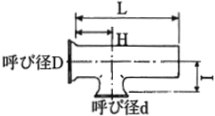
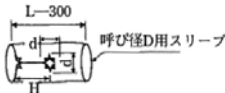
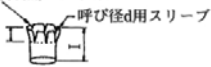

表6 T字管の施工例(接合部をA法に準じて行う場合)

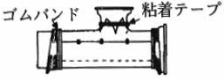
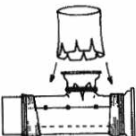

手順	図	解説
1	 <p>呼び径D 呼び径d</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●T字管の各寸法に合わせてスリーブを切断する。
2	 <p>L+1000mmまたは1500mm 呼び径D用スリーブ A: H+500mm (呼び径500以上は H+750mm)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●呼び径D用スリーブをT字管のL寸法より1000mm(呼び径500以上は1500mm)長く切断し、さらに枝管部分を容易に被覆できるように切り目を入れておく。
3	 <p>端部からD/2の長さの切込みを6カ所(等分点)に入れる 呼び径d用スリーブ B: I+500mm (呼び径500以上は I+750mm)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●呼び径d用スリーブをT字管のI寸法より500mm(呼び径500以上は750mm)長く切断し、枝管部分を容易に被覆できるように切り目を入れておく。

手順	図	解説
4		<ul style="list-style-type: none"> ●呼び径D用スリーブを挿入し、広げる。
5		<ul style="list-style-type: none"> ●呼び径D用スリーブをA法と同様の方法で管に固定する。 ●枝管部分まで切り目を入れた箇所を粘着テープで管に固定する。
6		<ul style="list-style-type: none"> ●呼び径d用スリーブを枝管部分から挿入し、形を整える。
7		<ul style="list-style-type: none"> ●呼び径d用スリーブをA法と同様の方法で管に固定する。ただし、呼び径D用スリーブと呼び径d用スリーブのシールは粘着テープで行う。 ●以後、A法と同様にT字管を据え付け接合後、接合部のスリーブを管に固定する。

(特記) 寒冷地や雨天時および水場等ではT字部のスリーブの固定は、粘着テープの粘着力が低下することがあるので、T字管スリーブを大きく（I寸法の倍程度）取り、ゴムバンドで固定する。

表7 T字管の施工例(接合部をB法に準じて行う場合)

手順	図	解説
1	 <p>Diagram showing a T-junction pipe with dimensions: L (total length), H (height of the main pipe), D (outer diameter of the main pipe), and d (outer diameter of the branch pipe).</p>	<p>●T字管の各寸法に合わせてスリーブを切断する。</p>
2	 <p>Diagram showing a sleeve with dimensions: L-300 (length), d (inner diameter), and H (height). The sleeve is labeled "呼び径D用スリーブ".</p>	<p>●呼び径D用スリーブをT字管のL寸法より約300mm短く切断し、さらに枝管部分を容易に被覆できるように切り目を入れておく。</p>
3	<p>端部からD/2の長さの切込みを6カ所(等分点)に入れる</p>  <p>Diagram showing a sleeve with 6 notches of length D/2. The sleeve is labeled "呼び径d用スリーブ".</p>	<p>●呼び径d用スリーブをT字管のI寸法に切断し、枝管部分を容易に被覆できるように切り目を入れておく。</p>
4	 <p>Diagram showing the sleeve being inserted into the T-junction pipe.</p>	<p>●呼び径D用スリーブを挿入し、広げる。</p>

手順	図	解説
5		<ul style="list-style-type: none"> ●呼び径D用スリーブをB法と同様の方法で管に固定する。 ●枝管部分まで切り目を入れた箇所を粘着テープで管に固定する。
6		<ul style="list-style-type: none"> ●呼び径d用スリーブを枝管部分から挿入し、形を整える。
7		<ul style="list-style-type: none"> ●呼び径d用スリーブとB法と同様の方法で管に固定する。ただし、呼び径D用スリーブと呼び径d用スリーブのシールは粘着テープで行う。 ●以後、B法と同様にT字管を据え付け接合後、接合部のスリーブを管に固定する。

(特記) 寒冷地や雨天時および水場等ではT字部のスリーブの固定は、粘着テープの粘着力が低下することがあるので、T字部スリーブを大きく(I寸法の倍程度)取り、ゴムバンドで固定する。

表8 曲がり管の施工例(接合部をB法に準じて行う場合)

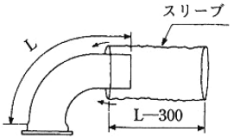
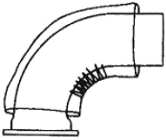
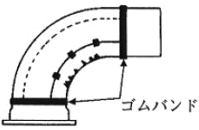
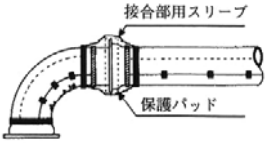
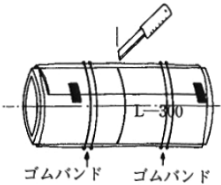
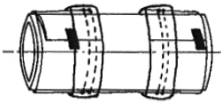
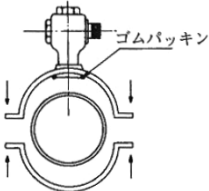
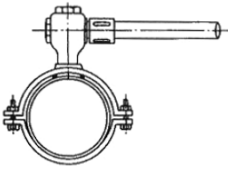
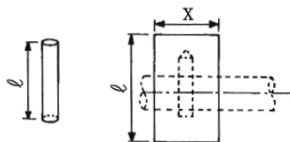
手順	図	解説
1		<ul style="list-style-type: none"> ●規定のスリーブを曲がり管の背面長さL寸法より約300mm短く切断し、曲がり管の挿し口側から挿入する。
2		<ul style="list-style-type: none"> ●挿入したスリーブを受口から挿し口まで広げ、形を整える。
3		<ul style="list-style-type: none"> ●粘着テープを用いて管頂部に折り重ね部がくるように固定し、受口および挿し口側のスリーブの端をゴムバンドで固定する。
4		<ul style="list-style-type: none"> ●以後、B法と同様に曲がり管を据え付け接合後、接合部用スリーブを管に固定する。

表9 分水栓の施工例
 (スリーブで被覆した配水管に分水栓を取り付ける場合)

手順	図	解説
1		<p>●サドル分水栓取り付け位置の中心線から両側20cmほど離れた位置をゴムバンドで固定してから、中心線に沿ってスリーブを切り開き、ゴムバンドの位置まで折り返し、管はだを表わす。</p>
2		<p>●分水栓取り付け部のスリーブ除去後の状況。</p>
3		<p>●分水栓を取り付ける。</p>
4		<p>●分水栓を固定し、給水管を接続する。折り返していたスリーブを元の位置に戻す。</p>

手順	図	解説
5		<ul style="list-style-type: none"> ●スリーブを切り開き、給水管、分水栓およびサドルにかぶせる。
6		<ul style="list-style-type: none"> ●分水栓部のスリーブをゴムバンドで固定する。この場合、締付けボルト部や分水栓の端部等のスリーブが埋戻しの際に破れないように、十分なたるみをもたせて固定する。 ●その他は、一般の継手部と同じ方法で管に固定する。

(参考) サドルに被せるスリーブの寸法

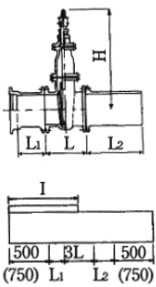
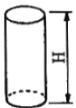
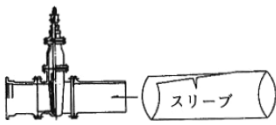
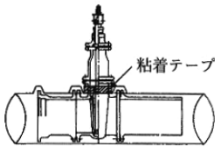


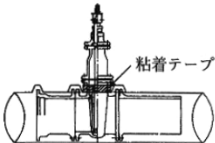
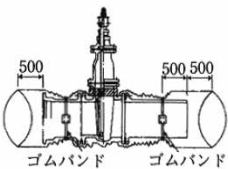
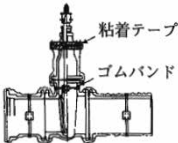
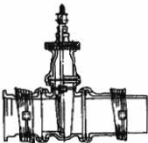
単位 mm

呼び径	l	X	呼び径	l	X
75	1400	700	200	1800	1000
100	1500	900	250	2000	1000
150	1650	1000	300	2100	1000

備考 X寸法は折り径の2倍でもよい。

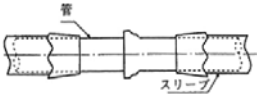
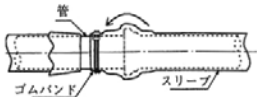
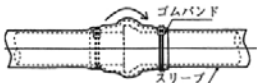
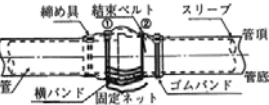
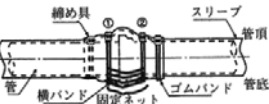

表10 バルブの施工例

手順	図	解説
1	 <p style="text-align: center;">I 500 3L 500 (750) L₁ L₂ (750)</p>	<p>●スリーブは、次のように切断する。</p> <p>①スリーブのバルブ部分の長さは3Lとする。</p> <p>②L_1+3L+L_2+1000 (1500)の長さに切断する。</p> <p>③短管の寸法に合わせてスリーブに1点破線を記入する。</p> <p>④___の部分を実線等で切り開く。</p> <p>$I=500(750)+L_1+2L$</p>
2	 <p>H：バルブのセンターからスピンドル上端までの長さ</p>	<p>●バルブ上部のスリーブ。同口径で長さHのスリーブを準備する。</p>
3	 <p style="text-align: center;">スリーブ</p>	<p>●短管2号側からスリーブを挿入する。</p>
4	 <p style="text-align: center;">粘着テープ</p>	<p>●切り開いた部分(バルブ部を除く)を粘着テープでつなぎ合わす。</p>

手順	図	解説
5		<ul style="list-style-type: none"> ●切り開いたバルブ部（斜線部分）を粘着テープで弁に固定する。
6		<ul style="list-style-type: none"> ●短管1号、2号部をゴムバンドで固定する。 図のようにスリーブに余裕を持たせておく。
7		<ul style="list-style-type: none"> ●バルブ上部被覆用スリーブを上からかぶせ、粘着テープおよびゴムバンドで固定する。
8		<ul style="list-style-type: none"> ●以後、直管接合A法と同様に据え付け接合後、接合部スリーブを管に固定する。

4. 固定ネットの施工要領

表11 固定ネットの施工例

手順	図	解説
1		<ul style="list-style-type: none"> ●管を接合する。
2		<ul style="list-style-type: none"> ●折り返したスリーブを元に戻して接合部にかぶせ、スリーブの端部をゴムバンドで管に固定する。
3		<ul style="list-style-type: none"> ●他方のスリーブも同様に、管に固定する。
4	<p>呼び径75~200の場合</p>  <p>呼び径250~450の場合</p>  <p>呼び径500以上の場合</p> 	<ol style="list-style-type: none"> ①固定ネットのゴムバンドで、管の挿し口部のスリーブを固定する。 ②固定ネットの他方のゴムバンドまたは結束ベルトで、管の受口部のスリーブを固定する。(特記) <ul style="list-style-type: none"> ●横バンドは管底部にくるようにする。(この時、締め具の位置は、呼び径450以下では管頂に、呼び径500以上では管横になる。) ●管の挿し口部のスリーブにゴムバンドを取り付ける際には、できる限り受口端部付近にする。 ●横バンドはたるまないようにする。

5. ポリエチレンスリーブ、ゴムバンドの数量計算

(1) 100m当りポリエチレンスリーブ使用量(m)

$$\frac{L_2 \times (1 + \alpha)}{L_1} \times 100.0\text{m}$$

L_1 : 直管長(m/本)

L_2 : 管1本当りスリーブ長(m)

α : ポリエチレンスリーブ割増係数

(2) 100m当りゴムバンド使用量(組)

$$\frac{4\text{組} \times (1 + \beta) + (L_1 - 1.0\text{m})}{L_1} \times 100.0\text{m}$$

L_1 : 直管長(m/本)

β : ゴムバンド割増係数

表12 管1本当りスリーブ長と割増係数

呼び径	L_1	L_2	α	β
	直管長(m)	管1本当り スリーブ長(m)	ポリエチレンス リーブ割増係数	ゴムバンド 割増係数
50	4.0	5.0	0~0.2	0~0.5
75~100	4.0	5.0	0~0.2	0~0.5
150~250	5.0	6.0	0~0.2	0~0.5
300~350	6.0	7.0	0~0.2	0~0.5
400~450	6.0	7.0	0~0.1	0~0.1
500~1500	6.0	7.5	0~0.1	0~0.1
1600~2600	4.0	5.5	0~0.1	0~0.1

備考 ポリエチレンスリーブの割増係数は、異形管、切管等に伴い使用不能となる材料割増である。

また、ゴムバンド割増係数は、異形管、切管等に伴う接合箇所数の割増である。

表13 粘着テープで固定する場合の100m当り使用量

呼び径	粘着テープ使用量(m)
50	51.0
75	51.0
100	61.2
150	83.6
200	104.0
250	126.5
300	147.9
350	168.3
400	190.4
450	210.8
500	232.9
600	275.4
700	317.9
800	360.4
900	404.6
1000	447.1
1100	489.6
1200	532.1
1350	596.7
1500	659.6
1600	698.7
1650	719.1
1800	780.3
2000	869.6
2100	912.9
2200	961.4
2400	1035.3
2600	1129.7

施工要領書の内容は、製品の仕様変更などで予告なく変更される場合がありますので、当協会のホームページ (<http://www.jdpa.gr.jp>) から最新の施工要領書がダウンロードできますので、お手持ちの施工要領書をご確認いただき、施工作业時には最新の施工要領書にしたがって作業を行ってください。

一般社団法人
日本ダクティル鉄管協会
<http://www.jdpa.jp>

本部・関東支部	東京都千代田区九段南4丁目8番9号（日本水道会館） 電話03(3264)6655(代)	FAX03(3264)5075
関西支部	大阪市中央区南船場4丁目12番12号（ニッセイ心斎橋ウエスト） 電話06(6245)0401	FAX06(6245)0300
北海道支部	札幌市中央区北2条西2丁目41番地（セコム損保札幌ビル） 電話011(251)8710	FAX011(522)5310
東北支部	仙台市青葉区本町2丁目5番1号（オーク仙台ビル） 電話022(261)0462	FAX022(399)6590
中部支部	名古屋市中村区名駅3丁目22番8号（大東海ビル） 電話052(561)3075	FAX052(433)8338
中国四国支部	広島市中区立町2番23号（野村不動産広島ビル） 電話082(545)3596	FAX082(545)3586
九州支部	福岡市中央区天神2丁目14番2号（福岡証券ビル） 電話092(771)8928	FAX092(406)2256